



中国がわかるシリーズ 28 海の中国とウイグル、トゥプトの興亡（下）

ライフネット生命保険株式会社
代表取締役会長兼 CEO、出口 治明氏

840 年、重なる天災に苦しめられたウイグルが約 100 年の覇権の後、キルギス(テュルク系)によって離散に追い込まれました(しかし、キルギスは、ウイグルに代わってモンゴル高原を安定支配する国家を創ることが出来ませんでした。この権力の空白地帯にやがて、キタイ族やモンゴル族が台頭してくるのです)。

ウイグル帝国の滅亡は、歴史的には極めて大きな意味を持ちました。突厥以来、北アジアを居住地としていたテュルク系民族(トルコ民族)は、これ以降、活躍の舞台を中央アジアに移すことになったのです。

9 世紀の中葉には、東部天山地方に西ウイグル王国が成立し、890 年代には甘州ウイグル王国が成立して、中央アジアの覇権は、テュルク系民族の手に落ちました。翌 841 年には、仏教を弾圧したランダルマ王の死去に伴う混乱からトゥプトも分裂して滅びました(タングート族台頭の遠因)。つまり、唐は、一挙に西方 2 大強国の圧力から解放されることになったのです。

唐は、もうしばらく命脈を保つことになります(晩唐の時代)。モンゴル高原やチベットも、唐同様に分立化の世界に入ったのです。安史の乱以降の東ユーラシアは、分極化という大きな方向に歴史が流れ始めていました。500 年後、チンギス・カンが統一の方向にこの流れを切り替えるまで。なお、トゥプトの先鋒を務めていた西突厥系の沙陀部は、唐に(傭兵として)仕えることになりました。